

附表. 続・癒しの森プロジェクト (図 3.1) によって期待される便益

受益主体	連携対象	便益の内容
学生	富士癒しの森研究所	<ul style="list-style-type: none"> ・森林と人間の関わりに関する知識が教養として得られる ・森の癒し効果に関する専門的な学びが得られる ・研究所が実社会と接して得られた社会実践的な知識が得られる ・ストレスへの耐性（レジリエンス）を高める全人的な教育機会が得られる ・体験をもとにした教育プログラムを受けられる ・環境を変えて静養・内省する場が得られる（リトリート）
富士癒しの森研究所	学生	<ul style="list-style-type: none"> ・森の癒しに関連する専門家を輩出できる ・若い世代の自由な発想を研究に活かせる
研究利用者	富士癒しの森研究所	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールド研究の実施にあたり的確なサポートが得られる ・研究所が蓄積した基礎的なフィールドデータを利用できる ・研究所の社会的信用（ラ・ポール）を活用して社会調査ができる ・オフキャンパスに身を置き自由な発想での知的生産に取り組める ・異なる専門の研究者が会することで多様な価値観に触れられる
富士癒しの森研究所	研究利用者	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な分野の研究知見が研究所に集積される ・研究者による森林利用自体を森林利用形態の一つとして研究できる
地域社会・関連団体	富士癒しの森研究所	<ul style="list-style-type: none"> ・森林および森の癒しに関する知識が得られる ・森林に関わる文化の醸成が促される ・学術的知見を活かした地域の政策を検討することができる ・研究所が整備した快適な自然環境を享受することができる
富士癒しの森研究所	地域社会・関連団体	<ul style="list-style-type: none"> ・研究所の各種事業への地域住民・団体の協力が得られる ・実社会に働きかけをする研究（アクションリサーチ）が実施できる ・様々な主体（マルチ・ステークホルダー）の価値観を知れる
学生	研究利用者 (研究所が媒介)	<ul style="list-style-type: none"> ・分野横断的な研究テーマに取り組める ・総合的な学術知見に触れる機会が得られる ・諸先輩の多様な経験を共有できる
研究利用者	学生 (研究所が媒介)	<ul style="list-style-type: none"> ・分野横断的な研究を推進できる
学生	地域社会・関連団体 (研究所が媒介)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会の実情に触れる機会となる ・都会にはない多様な生き方について知る機会となる
地域社会・関連団体	学生 (研究所が媒介)	<ul style="list-style-type: none"> ・学生との交流ができる
研究利用者	地域社会・関連団体 (研究所が媒介)	<ul style="list-style-type: none"> ・実社会における多様な価値観に触れる機会になる ・ソーシャル・デザインを念頭においた実践的な研究が実施できる
地域社会・関連団体	研究利用者 (研究所が媒介)	<ul style="list-style-type: none"> ・研究者ネットワークに触れ、活用できる ・研究により現地社会（ソーシャル・デザイン）が洗練される

附録

富士癒しの森研究所を利用した研究(第4期)

1. 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林(2012) 東京大学演習林気象報告(自2010年1月至2010年12月), 演習林, 52, 339
2. 西山教雄・千島茂・齋藤俊浩(2012)ポータブルロープウィンチを使った簡易で安全な集材作業の試み, 平成23年度技術職員等試験研究・研修会議報告
3. 西山教雄・村瀬一隆(2012)富士山噴火のハザードマップから想定した、対策と避難ルートの検討, 農学生命科学研究科技術職員研修会報告集
4. 齋藤暖生(2012)東京大学演習林が進める一癒しの森プロジェクト, 山梨県環境科学研究所国際シンポジウム2012報告集, 18-26
5. Hiroe NARITA, Junji SUGIYAMA, Shigenori KUGA(2012), Chemotaxonomical identification of Holocene bogwood recovered after 2007 Niigataken Chuetsu-oki Earthquake, *Holzforschung*, 66, 951-957
6. 宮部涼太郎(2012)道の利用・管理が関わる森林内の道周辺の環境形成について, 東京大学農学部卒業論文
7. 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林(2013)富士癒しの森研究所第4期教育研究計画(2011(平成23)年度～2020(平成32)年度), 演習林, 51, 397-429
8. 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林(2013)東京大学演習林気象報告(自2011年1月至2011年12月), 演習林, 53, 217
9. 山田利博・村川功雄・齋藤俊浩・大村和也・高德佳絵・才木道雄・井口和信・井上淳・齋藤暖生・辻和明・田野井慶太郎・中西友子(2013)福島第一原子力発電所事故に起因する放射性物質低汚染地域におけるキノコ類への放射性セシウムの蓄積—東京大学演習林における事例—, *RADIOISOTOPES*, 62, 141-147
10. 西山教雄・村瀬一隆(2013)「癒しの森」づくりにおける灌木・枝条の処理方法の検討—焼却法と破碎法の比較—, 平成24年度技術職員等試験研究・研修会議報告
11. 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林(2014) 東京大学演習林気象報告(自2012年1月至2012年12月), 演習林, 55, 163-186
12. 西山教雄・村瀬一隆(2013)富士癒しの森研究所における利用者の実態と課題—利用申込書の分析と撮影調査から—, 平成25年度技術職員等試験研究・研修会議報告
13. 山田薫(2013)都市近郊の孤立二次林および市街地に生育するコブシの遺伝的特徴: 埼玉県所沢市周辺における事例, 東京大学大学院農学生命科学研究科修士論文
14. 小林直人(2013)富士癒しの森研究所におけるニホンジカの生息密度推定および植生被害, 東邦大学理学部卒業研究報告書
15. 小野優(2013)森林ライブ音が聞き手に与える印象に関する研究, 東京大学大学院新領域創成科学研究科修士論文
16. 宮部涼太郎(2014)環境教育から見た森の施業と森の景観・構造, 第125回日本森林学会大会学術講演集, 87
17. Tadashi SHINOHARA(2013), Evaluation Methods for Atmospheric Corrosion Behaviors, *Proc.NACE*

International East Asia and Pacific Rim Area Conference, EAP13-4606, CD

18. Tadasgu SHINOHARA(2014), Evaluation of Corrosion Rates of Carbon Steel in an Atmospheric Environment by an Atmospheric Corrosion Monitor(ACM)Type Corrosion Sensor, Proc.15th Middle East Corrosion Conference, No.144-CR-20, CD

19. 高山範理・藤原章雄・齋藤暖生・村瀬一隆・西山教雄・遠藤淳子・堀内雅弘(2014)オンサイトにおける森林風景開放時と遮蔽時の違いからみた印象評価特性, 関東森林研究, 65-1, 157-158

20. 高山範理・藤原章雄・齋藤暖生・堀内雅弘(2014)オンサイトの森林視覚刺激の有無が主観的回復感・感情・注意回復力にもたらす影響, 日本造園学会誌ランドスケープ研究, 77(5), 497-500

21. 齋藤馨・藤原章雄・中村和彦・小林博樹・岩岡正博・中山雅哉(2014)多地点型森林ライブモニタリングシステムの構築, 第125回日本森林学会大会学術講演集, 189

22. 藤原章雄・齋藤暖生・高山範理・堀内雅弘(2014)針葉樹林の密度の違いと保健休養機能の関係に関する地域住民参加型の調査研究に向けて, 第125回日本森林学会大会学術講演集, 66

23. エゾマツ早出し健全苗プロジェクトグループ(2014)エゾマツ早出し健全苗育成のための手引き

24. 齋藤暖生(2014)人と森をつなぐ-東京大学演習林‘癒しの森プロジェクト’の試み-, 里山学研究里山がひらく持続可能社会 2013 年度年次報告書, 63-64

25. Masahiro HORIUCHI, Junko ENDO, Norimasa TAKAYAMA, Kazutaka MURASE, Norio NISHIYAMA, Haruo SAITO, Akio FUJIWARA (2014) Impact of Viewing vs. Not Viewing a Real Forest on Physiological and Psychological Responses in the Same Setting. International Journal of Environmental Research and Public Health 11, 10883-10901

26. 佐久間保彦(2015)ニホンリスの営巣場所の選択性, 東京大学大学院農学生命科学研究科修士論文

27. 境珠希(2015)光環境の変化に伴う太平洋型ブナと日本海型ブナ形態面における順化応答, 東邦大学理学部卒業研究報告書

28. 時澤諒(2015)富士癒しの森研究所におけるニホンジカの生息密度推定と植生被害, 東邦大学理学部卒業研究報告書

29. 田中千鶴(2015)日本海型ブナと太平洋型ブナの稚樹と成木における生理生態的特性の比較, 東邦大学大学院理学研究科修士論文

30. 吾妻直彦(2015)「山中のハリモミ純林」における植生変化とハリモミの遺伝的多様性, 東京大学農学部卒業論文要旨

31. 東京大学演習林鳥類研究会(2015)東京大学演習林鳥類目録第2版(2008年8月～2014年3月), 演習林, 57, 75-102

32. 西山教雄・村瀬一隆(2015)演習林の教育現場における木工機械の安全作業マニュアルの作成, 平成26年度技術職員等試験研究・研修会報告

33. 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林(2015)東京大学演習林気象報告(自2013年1月至2013年12月), 演習林, 57, 319-342

34. 後藤晋・西山教雄・村瀬一隆・楠本大(2015)植栽から3年間のエゾマツのコンテナ苗と裸苗における地上部と地下部の成長経過, 東京大学農学部演習林報告, 133, 43-51

35. 西山教雄・辻和明(2016)社会貢献業務の自己評価に向けた分析方法の提案, 平成27年度技術職員等試験

研究・研修会報告

36. 辻和明(2016)地域循環型「癒しの森」プロジェクトの活動紹介, 第1回東京大学技術発表会
37. 藤原章雄・齋藤暖生・浅野友子(2016)地域の森を活かす地域住民との協働による森林教育・社会貢献活動の試みー地域と創る「癒しの森プロジェクト」ー, 第127回日本森林学会学術講演集, 75
38. Norimasa TAKAYAMA, Haruo SAITO, Akio FUJIWARA, Masahiro HORIUCHI(2016), The Effect of Forest Management of Secondary Coniferous forests on User's Landscape Appreciation and Psychological Restorativeness. Japan Geoscience Union Meeting 2016. H-CG10
39. 高山範理・齋藤馨・藤原章雄・渡辺裕木(2016)五日間の都市近郊林における滞在が生活の質と気分の状態に与える影響, 人間・環境学会第23回大会
40. 澤田晴雄・鈴木祐紀・犬飼浩・齋藤俊浩・栗田直明・井上淳・辻和明・村瀬一隆・米道学(2016) 農学生命科学研究科7つの演習林の一覧と配置技術職員数, 第1回東京大学技術発表会
41. 澤田晴雄・鈴木祐紀・犬飼浩・齋藤俊浩・栗田直明・井上淳・辻和明・村瀬一隆・米道学(2016) 農学生命科学研究科7つの演習林と技術職員の業務, 第1回東京大学技術発表会
42. 辻和明・西山教雄(2016)富士癒しの森研究所における LTER の林分動態, 平成28年度技術職員等試験研究・研修会議報告
43. 齋藤暖生・藤原章雄・村瀬一隆・西山教雄・笠原琢志・浅野友子(2017)山梨県山中湖村における薪需要把握ー煙突等の目視路査, アンケート調査, 薪原木販売実験ー, 演習林, 59, 187-205
44. 齋藤暖生(2017)森が秘める「癒し」のはたらき, 都市と森林, 第2章
45. 笠原琢志(2017)山梨県山中湖村における薪の利用実態と薪の調達源としての森林ー世帯属性の違いからみた考察ー, 東京大学大学院農学生命科学研究科修士論文
46. 辻和明・西山教雄(2017)地域循環型「癒しの森」プロジェクトの活動紹介, 総合技術研究会 2017
47. 澤田晴雄・鈴木祐紀・犬飼浩・齋藤俊浩・栗田直明・井上淳・辻和明・村瀬一隆・丹羽悠二(2017) 東京大学7つの演習林と技術職員の業務, 総合技術研究会 2017
48. Lien L.T.H, SHINOHARA T, AMNUAYASAK C, TAHARA A, EKKARUT V, HONG H.L, SAN P.T, NGA N.T.T(2017)Atmospheric corrosion behavior of steel in Asian areas, Proc.the 20th International Corrosion Congress,Paper No.99815
49. Tadashi SHINOHARA, Le Thi Hong LIEN, AMNUAYASAK Chianpairot, Ekkarut VIYANIT (2017) Atmospheric corrosion behavior of galvanized steel sheet in Asia, Proc.the 11th International Conference on Zinc and Zinc Alloy Coated Steel Sheet,Paper No.0179
50. 篠原正(2017)日本における鉄鋼材料の大気腐食挙動ーE-Asia プロジェクト暴露試験結果ー,防錆技術,Vol.61,245
51. Tadashi SHINOHARA, Le Thi Hong LIEN, AMNUAYASAK Chianpairot, Ekkarut VIYANIT (2017) Atmospheric Corrosion Behaviors of Galvanized Steel in Asia, 第64回材料と環境討論会予稿集, 297
52. 辻和明・西山教雄(2017)山中湖村における有害鳥獣対策の経緯と現状ー富士癒しの森研究所の貢献可能性の検討ー,平成29年度技術職員等試験研究・研修会議報告,29-32
53. 辻和明・西山教雄(2018)山中湖村における有害鳥獣対策の経緯と現状ー富士癒しの森研究所の貢献可能性の検討ー,第2回東京大学技術発表会予稿集,1-4

54. Taiga KASUYA, Yoshitaka ONO (2018) *Herpobasidium filicinum* (Eocronartiaceae, Platyglloeales) occurs on *Dennstaedtia wilfordii* (Dennstaedtiaceae) in Japan, *Mycoscience* XXX,1-6
55. Noriyuki OSADA, Kazutaka MURASE, Kazuaki TSUJI, Haruo SAWADA, Koichi NUNOKAWA, Masami TSUKAHARA, Tsutom HIURA (2018) Genetic differentiation in the timing of budburst in *Fagus crenata* in relation to temperature and photoperiod, *International Journal of Biometeorology*
56. 齋藤暖生(2016)富士山北東麓における生態と生業－地域環境の制約と可能性－, 静岡県民俗学会誌, 第31・32 合併号
57. 齋藤暖生(2019)富士山北面における生業の展開と保護地域制度, 国立歴史民俗博物館研究報告 第215集, 9-32
58. 大北慧(2019)火山地域におけるタンクモデルを用いた一時河川の挙動解明, 筑波大学生命環境学群地球学類地球環境学主専攻卒業論文
59. 辻和明・西山教雄(2018)富士癒しの森研究所における危険木処理の現状と課題, 第8回農学生命科学研究科技術職員研修会報告集, 68-69
60. 辻和明・西山教雄(2018)富士癒しの森研究所における危険木処理の現状と課題, 平成30年度技術職員等試験研究・研修会議報告, 35-37
61. 齋藤暖生(2019)山中湖のワカサギと東京帝国大学, 演習林 第61号, 35-43
62. Taiga KASUYA, Yoshitaka ONO (2018) *Herpobasidium filicinum* (Eocronartiaceae, Platyglloeales) occurs on *Dennstaedtia wilfordii* (Dennstaedtiaceae) in Japan, *Mycoscience* 59, 443-448
63. Toshihiro YAMADA, Kazuya OMURA, Toshihiro SAITO, Yuji IGARASHI, Kae TAKATOKU, Michio SAIKI, Isao MURAKAWA, Kazunobu IGUCHI, Makoto INOUE, Haruo SAITO, Kazuaki TSUJI, Natsuko I.KOBAYASHI, Keitaro TANOI, Tomoko M.NAKANISHI (2018) Radiocesium contamination of wild mushrooms collected from the University of Tokyo Forests over a six-year period(2011-2016)after the Fukushima nuclear accident, 演習林 第60号, 31-47
64. Haruo SAITO, Masahiro HORIUCHI, Norimasa TAKAYAMA, Akio FUJIWARA (2019) Effects of managed forest versus unmanaged forest on physiological restoration from a stress stimulus, and the relationship with individual traits, *Journal of Forest Research* Vol.24, No.2, 77-85
65. Yoshitaka ONO, Dono WAHYUNO (2019) *Phragmidium satoanum*, a new rust pathogen of *Rosa hirtula* in Japan, *Mycoscience* 60
66. 辻和明・西山教雄(2019)富士癒しの森研究所における苗畑の沿革, 令和元年度技術職員等試験研究・研修会議報告,1-5
67. 白間菜々海(2020)千葉県柏市のズミ集団の花粉流動と遺伝的多様性, 東京大学農学部森林環境資源科学専修卒業論文
68. 藤原章雄・竹内啓恵・齋藤暖生・森田えみ・高山範理(2020)Twitterを使った住民の健康づくり推進と住民参加の空間情報収集, 第131回日本森林学会大会学術講演集, 127
69. 石橋整司・藤原章雄・齋藤暖生・西山教雄・辻和明(2020)東京大学富士癒しの森研究所カラマツ系統別試験地の成長解析, 第131回日本森林学会大会学術講演集, 249
70. 中村和彦・齋藤馨・藤原章雄・大塚啓太・奥山賢一(2020)森林体験活動を教室内学習へ持続的に反映さ

せる方法論の検討ー小学校第5学年の調べ学習単元における振り返り映像の視聴を事例としてー, 日本森林学会誌 102 巻, 77-82

71. 高山範理・藤原章雄・横山勝樹・齋藤暖生・下田倫子・後藤晋(2020)ダイバーシティを高めた状態での共同作業がもたらす意識変容傾向とその過程ー山中湖村演習林を対象とした東京大学と女子美術大学の合同演習における調査ー, 森林総合研究所研究報告 Vol.19 No.2, 137-151

72. 大井川和心(2020)日本の森林の問題を伝える, 東京大学教育学部附属中等教育学校卒業論文

73. 齋藤暖生(2020)生業の場としての富士山,古地図で楽しむ富士山 Part 4

74. 高村直也(2020)375kbps でステレオ音声をリアルタイム・ストリーミング, インターフェース 第46巻 第12号, 第4部 第1章

75. 齋藤暖生(2020)富士山北側の植生環境,BIOCITY No.84, 28-35

76. 東京大学富士癒しの森研究所 (2020) 東大式 癒しの森のつくり方: 森の恵みと暮らしをつなぐ, 築地書館

77. 辻良子・西山教雄(2020)Collector を使った危険木情報の管理システムづくり奮闘記, 令和2年度技術職員等試験研究・研修会議報告, 31-35

78. 三川裕一郎(2021)内視鏡を用いた樹洞内部の3次元計測手法の開発, 東京大学農学部卒業論文

79. 柿崎健士(2021)植生遷移における若木の分布戦略・微地形と若木生育適地の関係, 東京都立大学大学院都市環境科学研究科修士論文

80. 竹内啓恵・藤原章雄・林潔・長井聡里・川畑真理子・上原巖 (2021)地域住民を対象に大学演習林で行った森林散策カウンセリングの2事例, 第132回日本森林学会大会学術講演集, 85

81. 藤原章雄・齋藤暖生・高山範理・森田えみ・竹内啓恵(2021)森林空間を活用した音楽会の試みと自由記述アンケートから得られたこと, 第132回日本森林学会大会学術講演

82. 石橋整司・藤原章雄・齋藤暖生・西山教雄・辻良子(2021)東京大学富士癒しの森研究所カラマツ系統別試験地の成長過程, 第132回日本森林学会大会学術講演集, 146

83. 西川希一・奥山洋一郎・枚田邦宏 (2021) 全国の大学演習林における「山の神」祭行事の現状, 九州森林研究, No.74, 9-12